

コハクチョウ(*Cygnus columbianus*)の 霞ヶ浦定期飛来とレンコン食害

春日清一

国立環境研究所霞ヶ浦臨湖実験施設, 300-0402 稲敷郡美浦村大山無番地

茨城県へのコハクチョウ(*Cygnus colimbianus*)の定期飛来地は、菅生沼、大塚沼など見られるが、霞ヶ浦(西浦)への定期的飛来は記録されていない。霞ヶ浦南岸に2000年1月アメリカコハクチョウ(雑種?)の親子(?)が飛来し、その後数コハクチョウの数は増加し、翌2000/2001年期に再び同一場所に飛来し、越冬した。飛来したコハクチョウはハス田に入り、レンコンの摂食が確認されたので、報告する。

飛来記録

飛来確認場所は、茨城県稲敷郡美浦村舟子のハス田、同木原のコイ養殖池、およびその近くの霞ヶ浦湖岸域の3箇所である。これらをここではハス田、コイ池、湖岸と呼ぶ。この3箇所は、ほぼ2 km以内の範囲に入る(図1)。

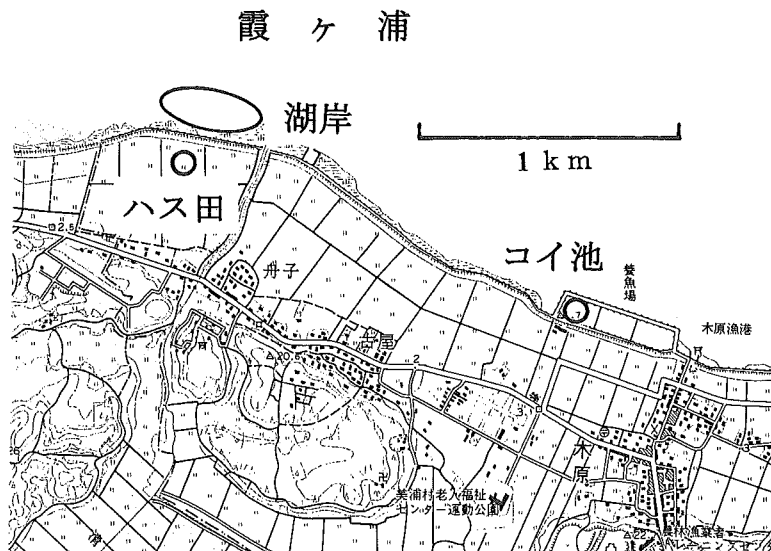


図1. 霞ヶ浦南岸コハクチョウ飛来地.

2000年1月～3月

2000年1月7日14時30分にハス田に2羽のコハクチョウを認めた。この2羽は嘴黄色部の小さな成鳥と幼鳥で、一時期この地域で確認されないことはあったが、終認された2000年3月21日まで滞在した。また、2000年1月17日にこの地域から約3 km離れた霞ヶ浦湖岸美浦村馬掛の水田で成鳥2、幼鳥2の合計4羽が確認され、この4羽は短時間で飛去している。同年1月19日16時50分にハス田に滞在した2羽と共に4羽が加わり、合計6羽がコイ池で確認された。その後2000年2月2日までこ



図2. ハス田のオオハクチョウ7羽とコハクチョウ1羽.



図3. ハス田で首を深く泥中に入れて採食するコハクチョウ.

地の域でコハクチョウは確認されなかったが、2月3日に6羽がコイ池で認められた。その後2月25日にコイ池で成鳥5羽、幼鳥3羽、合計8羽が見られ、2月27日にはコイ池で6羽、ハス田で2羽が確認されたが、2月29日には6羽がコイ池で認められた。3月4日にはコイ池で食パンの投餌が行われていることが確認され、その後しばしば投餌する姿を見るようになった。その後ハス田での観察は少なくなり、3月18日まで主にコイ池で観察された。3月20日にはこの地域で発見することができなかったが、3月21日13時02分に頭部を橙色にした6羽を確認したのが終認となった。この年には、湖岸域ではコハクチョウは見られていない。

2000年12月～2001年3月

この期のコハクチョウの初認は、2000年12月28日で舟子の湖岸で、8羽(成鳥3、

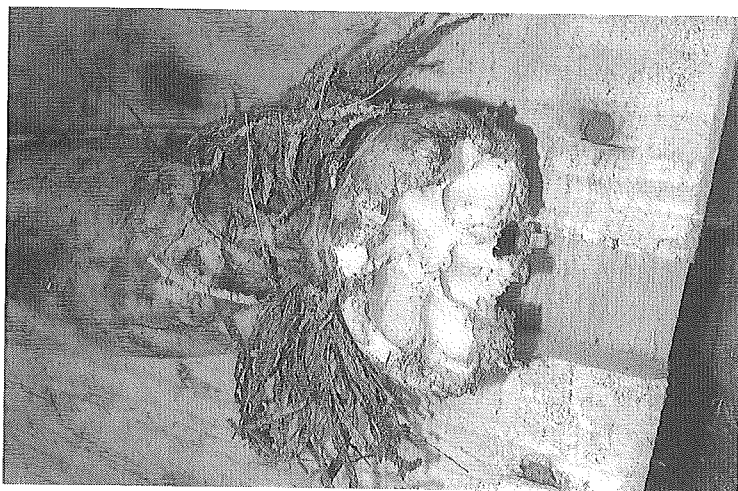


図4. コハクチョウに食害を受けたレンコン1.

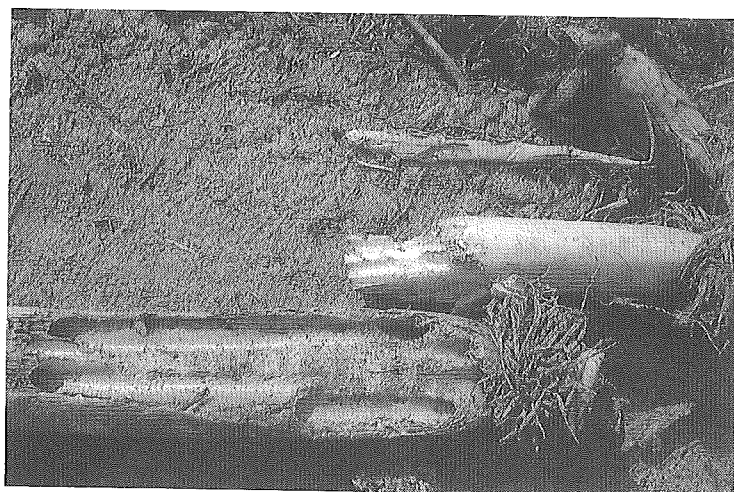


図5. コハクチョウに食害を受けたレンコン2.

幼鳥5)が確認され、1月3日には3羽(成鳥2、幼鳥1)が湖岸で、1月7日には湖岸で5羽(成鳥4、幼鳥5)、8日及び11日にこの5羽と思われる群がハス田で観察された。その後この5羽はしばしば湖岸で観察され、1月20日に8羽(成鳥5、幼鳥3)となった。この8羽の成鳥・幼鳥比は12月28日のもととは異なり、異なる個体組成であろう。この頃よりハス田で観察される事が多くなった。1月22日にはコハクチョウは10羽となり、1月29日にはオオハクチョウ7羽(成鳥2、幼鳥5)が加わり(図2)、合計17羽となった。このオオハクチョウは、1月30日に観察され、その後姿を消した。1月31日以後、2月11日まで10羽のコハクチョウがハス田で作業が行われている時を除いて、ハス田で観察された。2月13日には1羽の幼鳥が加わり、11羽となった。この11羽は終認された3月16日までこの水域に滞在した。2月23日頃よりハス田でレンコンの収穫が行われるようになり、ハス田での観察は少なくなり、湖岸で背眠、また羽づくろいをすることが多く見られている。また3月11、12日には、湖岸に沈水じゃ籠の付着藻類を採食していた。

コハクチョウがハス田に滞在中は、盛んに首を深く土中に突っ込み、ハスを採食しているものと思われた(図3)。

ハスの収穫時、栽培者にハスの様子の聞き取りを行った。多くのハスにコハクチョウによる食痕が見られ(図4、5)、商品価値を失っていた。食害を受けた水田の面積は測定していないが、図1に見られる枯れたハスの葉の無い開水面は食害を受けた部分で、その金額は10万円を下る事はないとのことである。この間、栽培者は作業時に追い出す事はするが、鳥よけの手段を講じていない。食害を受けた水田は、1枚の同一水田であった。

霞ヶ浦周辺ではカモ類によるレンコン食害は発芽時の新芽食害の場合が多いが、このようなレンコンの激しい直接食害はそれほど起きていない模様である。行政は初めての経験で苦慮しているようである。翌年度の再来が危惧される。